

適用規格							
定 格	使用温度範囲	-55℃～ + 125℃（注1）		保存温度範囲	-10℃～ + 60℃（注2）		
	電 圧	AC 50 V					
	電 流	0.3 A					
性 能							
	項 目	試 験 方 法		規 格		QT	AT
構造	外観、構造、仕上げ	目視、寸法測定器にて測定する。		図面と合致していること。		○	○
	表示	目視にて確認する。				○	○
電氣的性能	接触抵抗	AC 20 mV, 1 kHz, 1 mAで測定する。		50 mΩ 以下		○	—
	絶縁抵抗	DC 100 Vで測定する。		500 MΩ 以上		○	—
	耐電圧	AC 150 Vの電圧を 1 分間印加する。		せん絡・絶縁破壊がないこと。		○	—
機械的性能	繰り返し動作	50 回の抜き差しを行う。		①接触抵抗：50 mΩ 以下 ②破損、ひび、部品のゆるみがないこと。		○	—
	耐振性	周波数 10～55 Hz、片振幅 0.75 mmで 3 方向 各 2 時間試験する。		① 1μs以上の電氣的瞬断がないこと。 ②破損、ひび、部品のゆるみがないこと。		○	—
	耐衝撃性	加速度 490 m/s ² 、持続時間 11 ms、 正弦半波 3 方向 各 3 回試験する。		① 1μs以上の電氣的瞬断がないこと。 ②破損、ひび、部品のゆるみがないこと。		○	—
環境的性能	定常状態の耐湿性	温度 40 ± 2℃、湿度 90～95 %中に 96 時間放置する。		①接触抵抗：50 mΩ 以下 ②絶縁抵抗：500 MΩ 以上 ③破損、ひび、部品のゆるみがないこと。		○	—
	温度サイクル	温度 -65→ 125℃ 時間 30 → 30分 を 5 サイクル 試験する。 （槽の移し換え時間は2～3分）		①接触抵抗：50 mΩ 以下 ②絶縁抵抗：500 MΩ 以上 ③破損、ひび、部品のゆるみがないこと。		○	—
	半田耐熱性	【 リフロー半田付けの場合 】 《 リフロー部 》MAX 250℃ピーク 220℃以上 60 秒 以内 《 予熱部 》 150～180℃ 90～120 秒 リフローは同条件にて2回まで可能 【 手半田（リペア）の場合 】 半田ごてで 350℃、3秒の条件にて半田付けを行 う。但し、端子に力を加えないこと。		外観の変形及び端子等に 著しいガタがないこと。		○	—
	二酸化硫黄	濃度25ppm, 40℃, RH75%に96時間放置する。 （試験規格：JEIDA-38）		①接触抵抗：50 mΩ 以下 ②はなはだしい腐食がないこと。		○	—
備考							
(注1)通電時の温度上昇を含みます。							
(注2)保存とは基板搭載前の未使用品に対する長期保管状態を表し、基板搭載後の無通電状態は 使用温度範囲が適用されます。							
試験規格の記載のない試験方法は JIS C 5402を適用しています。							
	△の数	訂正記事		設計		検図	年月日
△	0						
				承認	WR. FUKUCHI	20200720	
				検 図	TS. MIYAZAKI	20200720	
				担 当	KT. KUSAKA	20200717	
				製 図	RN. IIDA	20200717	
注 QT:確認試験 AT:製品検査 ○:適用項目				図番		SLC-389290-51-01	
HRS	製 品 規 格 表			製品名		DF12NC (3. 0) -36DP-0. 5V (51)	
	ヒロセ電機株式会社			製品コード		CL537-0488-0-51	
						△	1/1